



ぐんぐん すくすく！相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5

電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211

E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

◆『いじめ防止サミット』を開催しました。 <8月26日(月) なぎさホール中ホールにて>

昨年までは「ケータイスマホサミット」としていましたが、今年から「いじめ防止サミット」と名称を変更し開催しました。市内小学生14人、中学生9人、そして小中学校の先生や指導主事の14人も加わり、兵庫県立大竹内教授の指導のもと、8人の大学生のサポートを受けて開かれました。

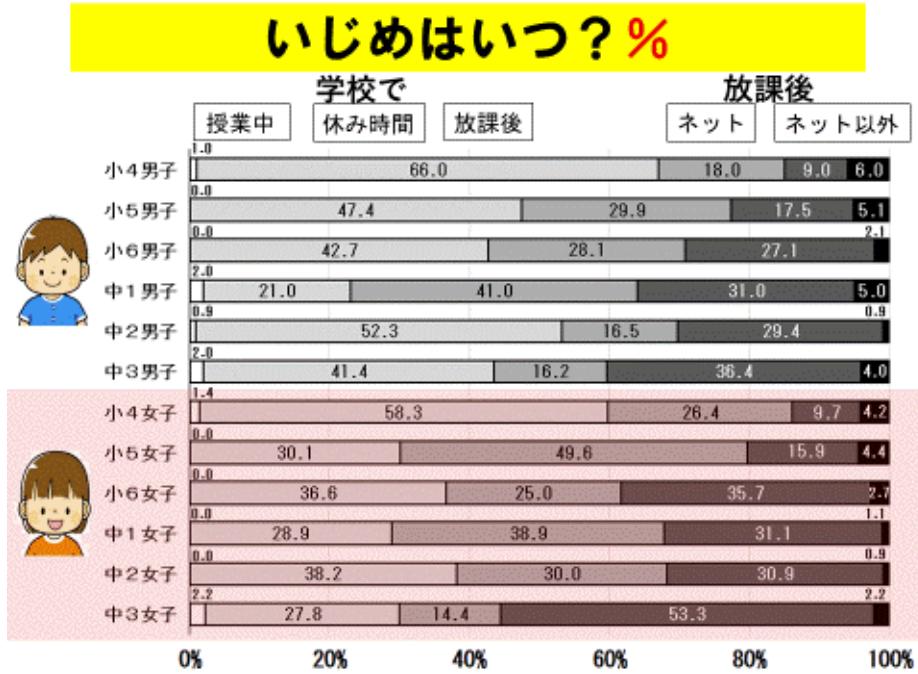
まず、アイスブレイクで話しやすい雰囲気を作り、その後、事前のアンケート結果を聞き、問題点を確認し、最後に「先生へ」「親へ」「相生市へ」「自分へ」の提言をまとめました。

3時間にわたり、互いを知り、一緒に考え、自主的に発言し、他の考えを聞き、またさらに考える、といった具合に、見ても大変中身の濃い時間でした。

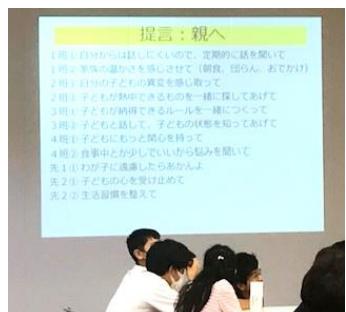


竹内教授からアンケート結果を聞く

〈アンケート結果より〉



大学生のリードで話し合う



みんなで提言を考える

〈提言〉より

◇親へ

- 定期的に話を聞いて
- 家族の温かさを感じさせて
- 子どもの異変を感じ取って
- 熱中できるものを一緒に探して
- 納得できるルールを一緒に作って
- 子どもの状態を知って
- 子どもにもっと関心を持って
- 悩みを聞いて(食事中でも)
- 我が子に遠慮しないで(先生グループ)
- 子どもの心を受け止めて(先生グループ)
- 生活習慣を整えて(先生グループ)

◇先生へ

- いじめ対応は個別でして
- 子どもの話をしっかり聞いて
- 子どもの意見に寄り添って
- 相談しやすい環境を作って
- 匿名でも相談できるようにして
- 加害者、被害者両方の視点で
- 匿名でも相談できるシステムを作って
- いじめの時、どうしたら良いか教えて
- 教職員のチームワークが大切(先生グループ)
- 子どもと向き合う時間を増やしていく(先生グループ)
- 保護者と情報を共有し、連携しよう(先生グループ)

「いじめ防止サミット」の様子のほんの一部を紹介しました。今回のサミットの内容とその後の各学校での取り組みについては、来年1月26日(日)開催予定の第44回相生市健全育成市民大会の場で参加生徒代表に発表してもらう予定です。

また、アンケート結果についても、市民大会冊子に掲載する予定です。

東井義雄 いのちの言葉 <9月> ~『東井義雄一日一言』(致知出版社)より~

いのちを育てる教室

五 一 教師が、ひとりひとりの
子どものいのちにふれて
いけるようになること。

四 二 子どもひとりひとりが、
教師のいのちにふれて
くるようになること。

三 子どもひとりひとりが、
相互にいのちをふれあい、
どんな子どもも馬鹿にせざ
されないようになること。

二 子どもひとりひとりが、
自分の尊さを大事にし
がんばる態勢になること。

一 子どもの父母たちが、
教室を信じ、
教師の仕事に協力する
態勢になってくれること。

一つの所に力を集めて
がんばることを
「一所懸命」という
指の先の小さい力でも
針の先の一点に集まると、
固いものを貫く力になる
君の力を一点に集中して
がんばれば

【とおい・よしお】「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者。兵庫県豊岡市但東町佐々木に生まれる。小学校教師として村を育てる教育を実践。ペスタロッチ賞、平和文化賞、小砂丘忠義賞、文部省教育功労賞受賞。

ようてんことば 「陽転言葉を使いましょう」

脳力開発研究家 吉野 邦昭

阳転言葉は脳を「快」の状態にする簡単で最速の方法です。

「阳転」の「阳」は、ポジティブとかプラスなど、いい部分ということです。物事には必ずプラス面とマイナス面があります。そのプラスのほうに視点を転じる言葉遣いを「阳転言葉」といいます。

私がはずっと自分に自信がなくて、口下手で営業センスもありませんでした。私がようやく変われたのが、40代の時に参加した記憶術のセミナーでした。そのセミナーで教えてもらつた「陽転言葉」を使うことで自分に自信を持つことができたのです。

仕事で思うように成果を上げられず、自信を持てずにいた吉野さん。その人生が一変するきっかけとなつたのが「陽転言葉」でした。仕組みを理解し「陽転言葉」を口癖にしましょう！

日本では「謙遜は美德」とされます。例えば、「吉野さん、学生時代の成績はどうでした?」と聞かれて、「暗記科目はダメだつたけど、物理は完璧でした!」と胸を張つて自信満々にいうと、相手は、「何だか、こいつ、偉そうな奴だな」と感じますよね。だから多くの日本人が、「国語はできたけど、数学はダメだつた」とプラス面を先に言つてマイナス面を後で言う。「陰転言葉」を使つて謙遜するわけです。

でも、たまたまATMで
お金をおろして財布に入れ
る前だつたら、ちょっとホ
ッとしませんか。

財布を落としたという事
実は変わりません。でも、

「お金をおろす前だつたか
らまだよかつた」というこ
とは思えます。

「財布は落としたけど、お
金をおろす前だつたからま
だよかつた」と思うだけで、
脳は少し快になるのです。

「マイナスなことを先に言
つて、その後『ちょっとで
もマン』なことを言う、こ
れが陽転言葉です。



「陽転言葉に変えると人生が幸せになつてきた。自分に自信が持てるようになつてきた」「夫婦関係がよくなつた」という声をこれまでたくさん聞きました。私もそのうちの一人です。

でも、この陰転言葉の使い過ぎが、私たち日本人の「自分への自信のなさ」につながっているんじやないか私は思っているんです。

(～未来を担う子どもたちに学びと感性を～「心搖るがす 日本講演新聞ジュニア」 2024/8月号より)